

星稜サ・エ・ラ

稲置学園 INAOKIGAKUEN NEWS LETTER

SEIRYO ÇÀ ET LÀ

No.5

2007

CONTENTS

Special Issue

「人間科学部新設」記念座談会-その1-
いま、こどもがおかれている環境
そして教育に課せられている課題は…。

星稜 hunt up
4年間必修のゼミナールは
「星稜モデル」

星稜アレコレ

金沢星稜大学
星稜女子短期大学
星稜中学・高等学校
星稜幼稚園・星稜泉野幼稚園

星稜Information



学校法人 稲置学園

「人間科学部新設」記念座談会—その1—

いま、子どもがおかれている環境 そして教育に課せられている課題は…。



左から大宮弘一氏、松本陽子氏、岡部昌樹氏

パソコンや携帯電話、そしてモノの洪水に取り巻かれ、子ども社会や教育現場にさまざまな問題と課題が……。岡部、大宮、松本の3人の先生方にそれぞれの立場から現状と問題点を語っていただきました。

激変するメディア環境が 子どもを蝕んでいる

大宮 私は37年間、小学校教育に携わりましたが、ここ10年、小学生が置かれている環境は著しく変化したと思います。昭和45年、私が教員になってはじめて受け持った子どもは、現在49才になっています。なかには教育現場にいる人もいます。教師の立場にある教員と保護者の立場にある教員、双方と話をいたします。そうしたなかで、この10年ほどで家庭環境や保護者の考え方が変わったことを強く感じるのですが、教師の意識は私自身も含めて、「昔は…」とか「今までは…」という風に意識改革ができていく部分があります。**岡部** 私は自分の専門分野である、「教育学」の観点からお話します。1990年代にネット時代が到来し、この10数年間にメディア環境が急速に変化しました。こともとって、これまでになかった全く新しい環境が出現したと思います。この急速な変化の代表として、仮想的な会話（チャット）がその代表的なもの）が挙げられます。大人は

人と直接対話するための力がついていきます。今のこどもは、直接対話と仮想対話（チャットや携帯電話）を同時進行で体験しています。直接対話は、教育

の重要な要素として指導体系が整えられています。私たちもその教育を受けてきましたから、こどもにも指導できます。ところが、仮想対話の特性について、こどもは体系的な教育を受けていません。大人が教育を受けていないから、こどもに教えられないのです。

その典型的事例は、記憶に新しい”佐世保事件“です。あのチャットという、文字言語のみのリアルタイムな対話をこどもも体験できるようになったのは、ここ10年のことです。これに関する研究はたいへん遅れていて、チャットによってどのような感情が生まれるか十分にわかっていません。ですから、教師も親も自信を持って指導できないのです。佐世保の少女は一日3時間もチャットをやっていたといいます。あの事件は、大人が指導の手立てを持っていなかったゆえの悲劇であり、彼女はネット社会の被害者ともいえます。

大宮 小学校では以前よりコンピュータ教育を行っています。しかし、すでに家庭にパソコンが普及していますから、学校で指導をする以前に、こどもはパソコン社会に入り込んでいます。学校の情報教育で規制やルールを教えているにもかかわらず、家へ帰れば自由にパソコンを使っているんです。

体験より知識、

「育む」術のない教育現場

松本 幼稚園のなかには、10年以上前からパソコンを取り入れているところがあります。たとえば、パソコンでぬり絵をするといった使い方。あれは、自分の手で塗るのではなく、マウスをクリックするだけで、ぱっと色がついてしまうんですね。

大宮 パソコン操作は必要な技術ではありますが、松本先生のおっしゃったようなことは、図工の教師をしていた私としては全てO・Kとは思いません。こどもは、絵の具や筆や水を使い、楽しみ、工夫しながら色の変化を発見していきます。そうしたことがこどもには大切だと思っています。

松本 文部科学省は「こどもは実体験が足りない」ということをしきりに指摘しています。自然のものに触れるという実体験、いま大宮先生の言われた自分の手で色を楽しむといった実体験。ところが、パソコンの画面上で色を塗るといったことは、あとかたづけは要らないし、机や洋服が汚れることもない。いろいろな材料も要らない。現場、あるいは親としては楽なんです。遊びのすべてにおいて実体験が不足しているように思います。文部科学省にしても、「もっと実体験を」と言いながら、一方でパソコン教育を勧めているんです。**岡部** 私は、パソコンの使い方がまち

がっているとと思っています。本来、メディアというのは拡張機能なんです。たとえば、人間の声はそのままでは、電波になりません。だから遠方の人と

いつでも話すために携帯電話が作られました。つまり、人間の機能を拡張したものがメディアです。メディアをいかにうまく使いこなせるかが問題なんです。ところが、幼児や小学生に適した指導方法が確立していません。先生方にもまだ、指導技術が定着していません。メディアは、これを使わなくては実現できないという場合に道具として使うものだと思います。メディアを使えば楽だから、というものであつてはいけません。しかし、こどもがパソコンを適切に使えるよう支援する

ようなソフトも十分ではありません。

松本 こどもに体験が欠けている、ということだと思うのですが、小学校には生活科という科目があります。その小学校の生活科の授業と幼稚園でのこどもの生活とを、互いに参観し合って話し合うという機会を設けたことがありません。幼稚園というのは一日中が生活、すなわち遊びです。遊びを通して言葉や人間関係などいろいろなことを体験していくんですね。ところが、小学校の生活科の先生方に幼稚園の一日を見ていただいたところ、「一体、なにを教えているのか」と言われました。小学校の生活科は、これだけの時間で何々を教えるなんてはいけません。カリキュラムをこなさなくてははいけません。という



松本 陽子 まつもと・ようこ／石川県金沢市出身。大学卒業後、教員として金沢市内公立小学校に勤務。その後金沢大学教育学部附属幼稚園教諭を経て副園長に就任。30年以上にわたり幼児教育に力を尽くす。現在は主に県内大学・専門学校で保育、教育、自然環境を専門に講義をする。

面が強いんですね。

岡部 教育は「教える」と「育む」という行為で成り立っています。いまの教育は「教える」ことに比重が置かれているように思います。なぜなら、世の中の目が厳しいからです。「あの先生は指導力がない」と評価されてしまつ。教えることに関する研究はとも進んでいません。いまの若い先生の模擬授業は、うまくですよ。でも、「育む」領域の研究は遅れています。先生方は「教える」技術は持っていますが、長期的に「育む」という視点が弱いようです。

大宮 ある若い先生が、生活科で七輪と炭を使って火をおこします。というものだから、学校で新しい七輪と炭を用意しましてね。先生と児童が炭に火をつけようとするんですが、うまくいかない。煙ばかり出て、みなでむせるばかりで。その先生が言うには、「火のつけ方は知っているけれど、実際にやったことはない」。知識だけで実体験はないんですね。岡部先生のおっしゃられるように、教育の現場が「教える」とばかりやってきたからなのでは、と思います。と同時に体験をする時間が現場では確保出来にくくなっています。

メディアが家庭に 無秩序を持ち込んでいる

大宮 こどもとパソコンの関わりをみると、知識や技術はあるけれど、ハー

トがないように感じます。たとえば、こどもの中には、将来はプログラマーになりたいという子がよくいます。でも、よく聞くとゲームで遊びたい思いの方が強いように感じます。私の家では、こどもにゲーム類は全く与えませんでしたね。

岡部 実は私もそうなんです。こどもにはゲーム類は一切与えませんでした。テレビはありましたけれど、家族のだれも見ない。ですから、こどもは本ばかり読んでいました。

松本 それが岡部先生の家庭の文化なんです。それぞれの家庭の選択です。こどもがテレビを見る時間は一日1時間、ゲームをする時間は1時間、というようなルールを決めている家もおありでしょう。でも、最近はゲームはやり放題、テレビは見放題といった家庭が増えてるように思います。

大宮 本来、家庭でこどもの生活上のルールを定めるべきです。それがうまくいかないものだから、学校になんとかしてください、という話になってくる。保護者と教師が集まったある研究会で、保護者から「このごろのテレビの内容はひどい。なんとか規制してほしい」という発言がありました。それは違うと思う。家庭で管理すべきことなんです。

岡部 テレビ番組をこどもの選択にまかせているというのは、おそらく日本

星稜幼稚園／園庭で遊ぶ園児





大宮 弘一 おおみや・こういち／石川県金沢市出身。大学卒業後、教員として金沢市内公立小学校に勤務。平成2年より石川県教育委員会及び県民生活局に勤務し第7回国民文化祭石川92の事業を担当する。平成19年3月に金沢市立長田町小学校校長を退職するまで、37年間にわたり小学校教育に力を尽くす。4月より星稜幼稚園・星稜泉野幼稚園園長に就任。

くらいでしょう。少なくともヨーロッパやアメリカでは、そういうことは許していません。親と子どもが話し合っ
て番組を選んでるんです。
大宮 とはいっても、最近では、こども部屋にテレビもパソコンもありますからね。

岡部 私の家では、こども部屋はありませんでしたが、居間に家族みながついて、おのおのが好きなこと、読書や勉強をしていましたよ。親は「ここにこんなおもしろいことが書いてあるよ」と話しかけたり、こどもはわからないことを祖父母や私たちに質問したりね。

松本 家族のいる居間や台所で勉強をして育った子のほうが、よく育つということを、ある本で読んだことがあります。こどもは親と会話をするなかでいろいろな情報を得、知識を学ぶことができる、ということなのでしょうね。

ルールも喧嘩も失われた こども社会

大宮 家庭がこどもにとって癒される場所になっていないのではないかと、思うことがあります。そのせいで、家での鬱憤を学校で発散するというようなことが起きているのでは・・・。

岡部 家庭が憩いの場になっていないんです。家族は一日、外で仕事をし、あ
るいは勉強をして家に帰ります。家は互いを癒しあう場であるべきなんです。
大宮 それが本来の家族というものですよ。ところが、こどもが家に帰っても、お父さんもお母さんも忙しい。こどもはさびしいんですよ。友だちと遊ぶうとしても、みな家に入ってしまった
いる。だれかの家に遊びに行っても、一人ひとりが黙ってゲームをしているんです。ゲームが始めたころの話を思い出しました。ある家庭で、こどもに遊び相手がいらないからゲームを買い与えたところ、友だちが家にやってくるようになった。ところが、そのうち、遊びに来た子らはゲームをやっているだけ。結局、その家の子は遊ぶ相手がいな

という、そんな状況になってしまった。
岡部 以前は、こどもの社会にもルールがありました。いろいろな年齢のこどもが、自分たちで遊びのルールを作っていた。それが社会を学ぶということなんです。私のこども時代は、学校から帰るとお宮さんに集まったものです。みんなビー玉などを持ってくるんです。毎回違った遊び方を工夫して、遊びのルールはみなで相談しました。ところが今は、こどもが自分たちのルールを作る場や時間が失われてしまいました。大人が取り上げてしまったんです。

大宮 確かに、いまのこどもは喧嘩をしなくなりました。喧嘩イコールいじめ、というとらえ方になっているからです。昔は、一方がきついことを言う
と、もう一方も言い返して、「自分はこうだよ」と主張しながらやり合いました。ところがいまは、なにかきついことを言われたら言われっぱなし。親に泣きついて、親が相手の子を叱るという具合です。

岡部 昔は、そんなふうにかきつ
きついてきても、親は相手にしなかったでしょう。自分で解決しなさい。でした。問題解決の機会を奪うことはなかったのです。みんなで遊んでいて、家へ帰るころになると、大概、喧嘩して帰ったものですよ。遊びのルールをめぐって喧嘩になるんです。こどもながらに社会の不条理を感じとり、問題

解決をしようとしていたのだと思います。そうやって喧嘩をして帰っても、翌日はまたみんなで遊ぶ。そんなことを繰り返しながら成長していったわけです。いまは、こどものルール社会を大人が奪ってしまっているんです。

学校と家庭は 相互理解があつてこそ連携

大宮 先ほどパソコンの話がありましたが、携帯電話にも問題があると思います。テレビは、こどもが欲しくなるような携帯のコマースシャルを流し、親に対しては、携帯があれば安心であるかのような宣伝をしている。本来、親がしっかりとこどもを把握することが重要であつて、携帯を持たせておけば安心というのはおかしいんです。

岡部 こどもに携帯を持たせるというのは、一種の子育て放棄ですよ。親としての指導力のなさを、メディアに依存しているんです。

大宮 保護者のなかには、「こどもに何かある場合に対して、学校はどのような指導をしているのですか」とおっしゃる方がいます。もちろん、学校は指導をしていますし、情報も提供しています。しかし、まずお父さんお母さん自身が自分のこどもは自分が守るという確固とした意識を持つべきです。そうした意識が全くないわけではないでしょうが、学校がなんとかしてくれる



岡部 昌樹 おかべ・まさき／石川県金沢市出身。大学院修了後、教員として金沢市内公立小学校に勤務。石川県教育センター指導主事を経て、平成11年より金沢経済大学（現：金沢星稜大学）に勤務。新学部設置の中心的役割を果たす。金沢星稜大学教授・教務部長。

何なのか、学校にしかできないことは何なのか、相互理解が成立してこそ、連携ができるんです。そのためには、お互いがもっとやり合わなくてはいい。イタリアでは、月1回懇談会が開かれますが、これは相互理解を図るためのものだそうです。保護者は、家庭教育ではできない部分のみ学校に委託しているという考え方が強いんです。家庭教育のポリシーがあるから要求がすこい。日本でも、保護者の要求が強いといわれていますが、要求の本身は全く逆です。その一例が、こどもが朝食を食べていけないから、学校で朝食を出すべきだという主張。食べることは、家庭が最も大切にすべき根源的な行為です。これを学校が奪ってはいけません。

便利さに捉われない

心の豊かさに達していない日本

大宮 昨年、ノロウイルスが発生した時に、小学校で10日間、弁当を持ってくることになったんですね。すると、こどもが「先生、いつまで弁当や。お母さんがおこつとる」と言う。お母さん方はお弁当を作るという経験が少ないです。こどももコンビニ弁当が好きなんです。いろいろなおかずが彩りよく入っていますから。

岡部 便利さと豊かさはき違えています。コンビニを使えば便利でしょう、

しかし、その便利さが豊かさを奪っている。マキャベリは19世紀、「モノが豊かになって心が豊かになった時代はかつてない。」と語っています。日本は今、豊穡です。どうすれば心も豊かになるのか、人類の歴史上、経験のないことを解決していかなくてはならないんです。私は便利さを否定はしません。一度、便利さを手に入れたからには、以前にもどることはできませんから。便利さの上に真の豊かさをどうすれば築けるのか。これが人間科学部のテーマなんです。

大宮 この春、孫が小学1年生になるんですが、両方の祖父母が机やかばんを買うわけです。でも、私の息子が使っていた机はまだまだ使えるのに、新しく買い与えるというのは、贅沢だなと。そうした贅沢さのなかにこどもがいるというのはどうなのだろうか、と考えます。

岡部 もっと生活を質素に、という考え方もあります。しかし、現在の日本経済は消費が支えています。私はモノの豊かさ、便利さは享受すればいいと思っています。ただ、そこで満足してストップしてしまつてはいけません。

松本 幼稚園や小学校低学年のお子さんをお持ちの若いお母様方は、モノのない時代をほとんど知りません。ですから、自分が経験してきた便利な生活が普通であつて、こどもにはそれ以上

に裕福な生活をさせたいというのが本音なんです。あのお宅では何々を買ったからうちでも買う。あのお宅ではこういう習い事をさせているからうちでも習わせる。そうしたことが豊かさだという感覚なんです。

岡部 便利さと豊かさをごまかしているというか、便利さしか知らないんですよ。昔はよかった、便利さはなかったけれど豊かさがあつた。というような言い方をしますが、それは現在から逃げていただけなんです。

大宮 こどもにいろいろなモノを与えて、右ならえというのがいけないといひません。しかし、「うちはうちなんだ、わが家の方針はこうなんだ」というポリシーがないから、どの家庭も不安なんです。

新しいスタイルの「子育てスベシャリスト」の育成をめざして

岡部 人間科学部のポリシーは「人間関係力」と「環境設計力」です。私は、この2つが次の豊かさを生むキーワードではないかと考えています。大宮先生が話されたのは、いまの家庭は環境を設計する力が弱いということだと思います。環境を作る教育は、受けてきませんでした。教育プログラムもありまん。人間科学部ではフィールドワークを重視しますが、これは人間関係力と環境設計力を鍛えるためです。具体

という思いが強い。学校ではこどもに自分の命は自分で守るという意識を持つように指導しています。保護者もまた、わが子は自分が守るという意識をしつかりと持っていただかないと。パソコンにしても同様です。家でこどもが有害サイトなどを見たりすることのないよう、親が管理すべきだと思います。**岡部** よく学校と家庭の連携という言葉が使われます。私は安易な連携を否定しています。まず、学校と家庭、それぞれの役割分担を認め合うことが必要なんです。家庭しかできないことは



的にいえば、ある空間に人を集めるにはどういう環境を作ればいいのか、これが環境設計力。そしてそこで何をするのか、これが人間関係力です。

大宮 自分にやりたいことがあって、ではどうすればそれができるのか、方法を考えたり苦労したりして、ようやくできた。そして、できたことがうれしい、と実感する。人間科学部の学生にはそういう喜びや体験をしてもらいたいのですし、教育の現場に出たときにその体験を生かしてくれば、と思います。

岡部 人間科学部の理念は「地域社会を育てるキーパーソンを育成する」です。そのための学習内容を準備しました。現代の便利さが生んだ問題を乗り越え、真に豊かさを作っていける人材を輩出したいと思っています。

松本 いまの学生さんはこともにふれ合ったり、お世話をしたりする機会がほとんどありません。その点、こちらの学園には幼稚園が2つ、中学校、高校もありますから。学生さんには、こともと大いにふれ合える体験をしていただきたいですね。

岡部 ええ、人間科学部のカリキュラムの中心はフィールド演習です。大学内で学ぶだけでは、先ほどからお話ししてきたような現代の問題は解決できない。フィールドでしか学べません。同時に、いろいろな人とふれ合う場を大学も持たなくてはいいけない。そこで、

6月に「ピアツア工房」を新設して、毎日、地域のかたに来ていただけるようにします。「ピアツア工房」には4つの工房、ものを作る「造形工房」、何かを試す「実験工房」、いろいろな表現を行う「表現工房」、こともが自由に遊べる「あそび工房」を設けます。フィールドワークを毎日行うことは難しいですから、この工房で学生にフィールドワークと同様の演習をさせたいと思っています。

座談会を終えて

岡部 対談を振り返ってみますと、少し現状を否定的に語ったように思えます。しかし、裏を返せば、新設された人間科学部への熱い願いとも言えます。人間科学部は、人間の精神的・身体的能力の形成・発達・開発に関する科学について教育・研究します。この課題を達成することを通して、社会や地域に貢献できる人材を輩出したいと強く願っています。そのためには、ともに集い、汗をかき、躍動し連帯する生命力溢れる人間、地域の伝統と文化の中で感性と知性を育もうとする人間に育てる必要があります。人間科学部は、時代に対応する新しい教育・人づくりを幼児・児童から青年層・成年層、さらには高齢層におよぶ領域を対象に、地域に根ざして活躍できる人材を育成していきます。

4年間必修のゼミナールは「星稜モデル」

1年次からの2つのゼミナール制。

大学が特徴とするきめ細やかな学生指導の一環である
基礎ゼミナール・専門ゼミナールについて探ってみた。



「きめこまかな指導」の一環としての全学年・全員ゼミナール制

基礎ゼミナールⅠ（一年次）

国語・数学の基礎学力の確保を中心課題としています。「SPI基礎」（ミネルバ書房）を共通教材として、就職時に多くの企業が採用しているSPI（Synthetic Personal Inventor）テストに習熟することを兼ねて、



一コマ90分授業の前半は、このテキストに基づいて授業を行い、後半は、各教員それぞれが、基礎的文献・

古典的文献の読解、時事問題についての討論やレポート作成技法等の指導を行っています。また、もう一コマは、文科省後援のビジネス検定試験の学習に充てられています。

基礎ゼミナールⅡ（二年次）

コミュニケーション能力の育成が中心課題です。学習課題に即して情報を「収集」「比較・判断・処理」「加工・表現」「発信・交流」する活動を取り入れています。基礎ゼミナールⅡは、シラバス（ゼミナールの目的・概要・月別テーマ等の計画をまとめた冊子）をもとに、教員研

究室を訪問し、自己アピール・質疑を経て選択する仕組みを取り入れています。

今年度からスタートした人間科学部は、学科の目的に添って基礎ゼミナールⅡに代わるものとして、「フィールド基礎演習」を位置づけています。体験を基盤とするコミュニケーション能力を育成することが目的です。

専門ゼミナールⅠ（三年次）

総合教育科目で身につけた幅広い教養と専門科目で学んでいる知識を融合し、深化を図ることを目的としています。学生は関心を抱くテーマを追求するのに相応しいゼミナールを選択することができます。シラバスをもとに、5人の教員と面談し、ゼミを選択する仕組みです。定員（16名）を超えない限り、学生は、希望ゼミに入ることが出来ます。定員を超えた場合は、第二希望のゼミに入ることになります。

専門ゼミナールⅡ（四年次）

内容と方法を融合させ、集大成としての卒業論文を完成させることが主目的です。

導入期教育の充実をめざす一年次合宿研修

毎年入学式直後、新入生の全員

が参加する、一泊二日の合宿研修を行っています（2005年以降は、通称「輪島キャンパス」）。今年度は能登半島地震のため、急遽「山中キャンパス」に変更し、4月5日（木）・6日（金）に実施しました。

この研修は、「金沢星稜大学の学生として、学生相互および教職員とのコミュニケーションをはかりながら、大学生としての自覚と今後の大学生生活の目標を考える。」ことを目的に、基礎ゼミナールⅠのスタート授業と位置づけています。今年度は、「基礎ゼミナールⅠ」山中温泉2007」と銘打って、経済学部・人間科学部合わせて24のゼミに分かれ、11台のバスに分乗して出発。山中文化会館で全体研修を行いました。ここでは、加賀市山中温泉支所長の歓迎挨拶、山中節の披露、山中温泉協会会長の記念講演が行われ、学生は800年の温泉文化の意義について熟考する機会を得たと思います。

学生には、この研修を通して是非考えて欲しい3つの課題を出しました。

「生徒と学生の違いは何か」

「人間関係力が重視される所以は」

「本学が掲げる『実学』とは何か」

午後は、ホテル・旅館で、学部・学科・コースのガイダンスやゼミ担当教員の下での履修指導、夜は親睦会も行われました。翌日は、山中の歴史と文化の多彩な魅力に触れなが

ら、お土産屋さんや美術工芸品ギャラリーを訪ねることができるよう自由行動としました。桜が咲き誇る山中での散策行動に、買い物券「山中湯路（ユーロ）」（2000円）は、効果的だったと思います。

学びを实らせる三年次の専門ゼミナールは、再び合宿研修から

昨年度より、3年次生の専門ゼミナールⅠの開始にあたり、加賀市の山中温泉観光協会の協力の下、ゼミ単位でホテル・旅館での分宿合宿を行っています。研修の目的は、「一泊の合宿を通して、学生相互および教職員との充実したコミュニケーションを図り、卒業ゼミレポート（卒業論文の作成に向けて研究課題の調整や研究プロセスなどについて論議を重ね、合わせて専門ゼミの充実と活性化を図る。」ことにあります。



この研修の目的達成をより確実なものとするため、専門ゼミナールⅠの選択は、既に2年次の12月段階で終えています。学生は2月に新しい専門ゼミナールⅠ・Ⅱの担当教員と顔合わせを行い、担当教員から「山中キャンパス」のオリエンテーションを受け

ました。特に合宿研修の意義・プログラムの確認、現地企画イベントの選択、現地での最初の授業の準備等。

「専門ゼミナール in 山中温泉2007(4月1日(日)・2日(月))」は、30ゼミに分かれて実施されました。山中文会館で行われた全体研修では、歓迎レセプションとして、山中節全国コンクール第20回チャンピオンによる山中節の披露。山中温泉旅館協同組合理事による山中温泉の紹介プレゼンテーションが行われました。ここでも、学生に次の二つの課題を出しました。

「人間関係力が重視される所以」

「本学が掲げる『実学』の意味」

この研修を通して、一定の私論を展開できることを求めました。

午後の研修①では、各ホテル・旅館に分かれ、ゼミナール単位で事前の課題に即して授業を実施しました。引き続きの研修②では、山中観光協会が企画した講演会、温泉旅館の経営のあり方、和の食文化等8コースの中から1つを選択履修しました。

夕方の研修③は、研修①をさらに継続。夕食時と食後はゼミ単位での懇親会ももたれました。

2日目は、買い物券「山中湯路(ユーロ)」「2000円」を活用して、「町並み散策と人の動向調査」を実施しました。

大学の学びを集大成する専門ゼミナールIIと卒業論文の作成・発表

2006年度に4年次生の専門ゼミIIの終了段階のイベントとして、「ブレ卒論発表会」(2007年2月13日(火))を実施しました。4年次生300名余で、一人の持ち時間は15分(発表10分、質疑・応答5分)です。教員も全員コメンテータとして参加しました。

学生は13会場に分かれ、1会場に発表学生が24名、数名の教員が交互に司会・進行役を務めました。学生の報告・質疑の直後に教員が視点別に評価し、改善点等を評価カードに記し、その場で当該学生に手渡ししました。

ブレ卒論発表会の実施にあたり、1月中旬に4年次生全員の概要書をまとめ「卒業論文概要書」を発刊し、全4年次生に配布。3年次生には専門



ブレ卒論発表

ゼミナールI、2年次生には基礎ゼミナールIIのゼミ時間を通じて参加要領を配布し、参加を呼びかけました。

正式には、現3年次生から実施するものですが、2006年度は過渡的・移行処置と位置づけて実施しました。

2008年度には、就職する企業の人事担当者、卒業した高等学校、保護者、一般市民の傍聴・参加までも可能とする体制を作っていく予定です。2007年度は、第二段階として、卒論発表会を12月に実施し、助言を卒業論文の修正に生かす手立てや学外者への「公開」を試行します。

「取材を終えて」

岡部教務部長の説明や学生達の取り組む姿勢をとおし、この四年間のゼミナール「星稜モデル」で学んだ事は、社会に出た時に大きな力となることを実感した。

「ゼミナールに参加して」

弓 元植(BC学科 3年)
僕は、ゼミでただ一人の中国人留学生です。僕は、日本文化にとても興味があったのと、馬場先生の基礎ゼミIIで「日本語の語彙力と表現力を訓練し、留学生試験の日本語一級にも合格したので、何とかがんばろう」と思い、馬場ゼミに入りました。

ゼミ別の研修では、「日本永代蔵」や江戸文化と歴史に関するクイズのブリ



ホテルでのゼミナール

ント、先輩の卒論概要書などが配られ、馬場先生から「専門ゼミは二年間持ち上がりで、卒業論文と就職活動の二つが中心となる」という説明を受けました。

また、先輩から「卒論と就活は早い時期からとりかかると、卒論のテーマは常に問題意識をもって積極的に演習に望めば自ずと見つかるし、企業は学生時代の諸活動を評価してくれる」という話を聞きました。

宿舎では、見た目も美しい日本料理の品々を楽しみ、温泉大浴場に入り、浴衣を着て、日本情緒に浸ることができました。

僕にとって一泊二日の山中研修は、とても素敵な思い出の一つになりました。これから、専門ゼミで経済小説『日本永代蔵』を学び、江戸時代の商売と職業について調べ、当時の日本・韓国・中国の経済・文化交流について研究してみたいと思います。

アコレ 星稜



宮本三弘さん

金沢星稜大学



星稜女子短期大学



廣瀬美幸さん

学園設置校の入学式が4月3日(火)から9日(月)にかけて行われ、太学院名、大学464名、短大133名、高校563名、中学校70名、星稜幼稚園59名、星稜泉野幼稚園56名が入学・入園しました。

総勢1352名が
星稜の仲間入り

入学式



土田征一郎さん

星稜高等学校



斉田育気さん

星稜中学校



星稜幼稚園



星稜泉野幼稚園



★短 スポーツマネジメントコース インターンシップ

スポーツマネジメントコースでは春期休暇期間にインターンシッププログラムを実施しました。スポーツビジネスの現場を体感することで、目的意識の向上や就業観の形成を目指します。

本年度は次の企業・団体にご協力いただきました。
(ミズノ(株)、ゼビオ株式会社、エイム、スポーツクラ

ブV10、株式会社コナミスポーツ&ライフ、クラブレッツ、金沢市スポーツ事業団)



ゼビオ株式会社



★高 国公立大学合格者 過去最多200名突破

東京大学・京都大学 現役W合格
名古屋大学・金沢大学に過去最多合格

国公立大学	合格人数(A)	私立大学	合格人数(A)
北海道大	3	青山学院大	4
東北大	2	慶應大	5
筑波大	4	上智大	1
東京大	1	中央大	13
東京工業大	1	東京理大	8
横浜国立大	2	法政大	29
富山大	44	明治大	11
金沢大	44	立教大	9
名古屋大	7	早稲田大	13
京都大	1	同志社大	26
大阪大	2	立命館大	78
大阪外大	2	関西大	41
神戸大	2	関西学院大	34
首都大東京	3	金沢星稜大	61
ほか	86	ほか	812

★大「地域デザイン・シンポジウム」

『東アジアの国際的中心都市「大連」——地域発展計画とファッション振興のなかで』

中国大連市は、港湾・工業・貿易都市とファッション都市の2つの顔を持ち、東アジアにおける国際的中心都市へと邁進しています。昨年11月、金沢市と大連市が「友好交流と協力に関する合意書」を交わしました。こうした折、金沢星稜大学経済研究所はジェトロ金沢貿易情報センターと連携し、1月

16日(火)金沢「ユークラントホテル」にて、シンポジウム「東アジアの国際的中心都市、大連を開催しました。このシンポジウムの企画意図は、両市が、これまでの教育分野からさらに産業、文化面へと幅広く交流を深めていくための1つのきっかけをつくることでした。『大連市の第11次5ヶ年計画』、「東アジアのファッション拠点都市・大連への展望」の2つの基調講演、続くパネルディスカッションを通

★大 リージョナルツーリズムフォーラム研究会開催

本学と金沢大学が共催で設立した「リージョナル・ツーリズム・フォーラム」の第一回研究会が、2月4日(日)、金沢大学サテライトプラザにて行われました。石川県の観光振興を考える目的で開催され、今回は、立教大学観光学部 安島博幸教授が、「観光地の現状とこれからの課題」と題して話されました。会場には約40名の両大学の研究者や一般の観光ボランティアが集まりました。

第二回研究会は、3月5日(月)、同じく金沢大学サテライトプラザで、金沢商業高等学校の田畑龍一郎教諭が「高校における観光教育について」と題し、講演されました。なお、フォーラムの副代表は金沢星稜大学堂下恵講師です。



第1回研究会



シンポジウム

じて、大連がめざす発展の方向、両市の交流・連携の道筋をつかむ手がかりが得られたと思います。

★大 プレ卒業論文発表会

2月13日(火)に経済学部一部のプレ卒業論文発表会が行なわれました。

この発表会は2年後の卒業必修化に向けて、今年度初めての試みとして行なわれました。4年次にとつては、大学生活の一つの総決算であると同時に、自分の卒業論文を他の学生や教員に発表できる良い機会となりました。これを機に、今後のゼミナール活動がますます活発になることが期待されます。



★大 合同企業説明会開催

2月15日(木)、16日(金)に3年生対象に学内合同企業説明会が行われました。

今年は参加企業が前年度を40%を上回る143社が参加し、2階フロアーのほか3、5、6、7階の各教室を使つての開催となりました。

学生は、本番開始とあつて身なりも整え、スーツも着慣れた様子で、落ち着いた臨んでいました。企業側からの評判も良く、これを土台にして



希望する会社から内定をもらえるように頑張つてほしいものです。

★短 学外(海外)研修

2月14日(水)から20日(火)までの7日間、オーストラリア研修が実施されました。1年次18名、2年次7名の計25名が参加。

当日は、全員そろつてケアンズの美しいビーチや施設を見学し、訪問先の方々と交流会を行いました。

JTBケアンズ支店長飯田晃氏による講演会では、ケアンズ観光の魅力に加え、変化する経済・社会の状況や国際情勢に対応するための苦労などについて話を聞きました。また飯田氏は石川県の観光にも詳しいことから、ケアンズと石川の特徴や違いについてもお聞きすることができました。

そのほか、世界遺産であるキュランダでは、第二次世界大戦で実際に使用されたアーミダック(水陸両用車)に乗ったり、先住民アボリジニの文化を体験したりしました。

オプショナルツアーでは、それぞれ、興味のあるツアーに参加し、巨大アリ塚の見学、野生のロックワラビーの餌づ



キュランダ駅で記念撮影



アボリジニの文化を体験

けや世界最大のサンゴ礁「グレートバリアリーフ」にある、サンゴが積みもつてできたグリーン島では、グラスボトムボート(船底がガラス張り)で海中が見えるようになっているボート)やシュノーケリングなどを体験しました。オーストラリアの世界遺産見学、異文化体験、外国人相手のコミュニケーション、そして海外で働く日本人と接するなど、貴重な体験ができた研修でした。

★中 感性を高めるために

2月3日(土)1年生が茶道の授業を体験しました。正座をして静粛に体験している姿に普段とは違った面がみられました。

伝統の美に目をむけ、体験し、見ることは感性を高め、心を豊かにしてくれることでしょう。

男子：すっきりした気持ちになることができ、感動しました。

女子：茶道の美しさに触れることができ、感動しました。また、体験したいです。



和室

★中 中学入学生徒たちが活躍

2月10日(土)入学試験が行われました。試験当日中学生は、駐車場係、受付係、案内係、試験係などを担当し、誠意をもって後輩になる皆さんのお世話をしました。

挨拶がさわやかで気持ちが良い、言葉使いがはつらつとしている、気がきいているなどの声が聞かれました。志願者は94名で過去最高の人数でした。



★短中スキ――実習・研修・教育―

大学では2月14日(水)～16日(金)の日程で野外スポーツ演習(冬季スノースポーツ実習)が長野県桐池高原スキー場にて実施されました。学生・教職員30名が参加しスキー、スノーボードを体験しました。

2日目には、スノーボードのインストラクターによる

短大ではスキー研修を3月3日(土)～5日(月)、スキー実習を3月3日(土)～6日(火)の日程で長野県・桐池高原スキー場で実施しました。

【スキー研修】

スキー研修には21名が参加しました。

1日目の午後と2日目の午前そ



中学校では2月20日(火)一里野温泉スキー場でスキー教室が行われました。晴天で絶好のスキー日和でした。そこら中で歓声が上がリ、初めは歩くこともままならない

る講習を受け、初めてスノー

ボードに挑戦した学生は最初戸惑いもあつたようですが、

皆上達

は早く、

楽しく

滑るこ

とがで

きたよ

うです。



それぞれ約2時間ずつ、桐池スキー学校のインストラクターによるスノーボード講習を受講したあと、自由滑走を楽しみました。

【スキー実習】

スキー実習は、スポーツマネジメントコースに配当の選択科目である「スポーツ方法演習Ⅰ」として実施し、16名が受講しました。1日目と2日目はスノーボードの実習を行い、3日目と4日目はスキーの実習を行いました。

人も1時間もしないうちにスイスイ滑っていました。



★高修学旅行

1年生

3月10日(土)～14日(水)、A

コースは東京・横浜、Bコー

スは九州へ出かけました。A

コースは、東京・横浜の文化

に触れるとともに早稲田大学

や東京大学のほか班別で志望

大学の探訪をしました。B

コースでは、より深い理解が

得られるよう平和公園や原爆

資料館の見学の前に被爆体験

者の講和を聞きました。

各方面の名所見学のほか各

コースの特徴を活かした内容

で行われました。



太宰府天満宮



平和公園



浦上天主堂

2年生

2月13日(火)～17日(土)

2年Pコースの生徒が北海道

に修学旅行に出かけました。

ルスツスキー場でスノー

ボード実習や雪上運動会が

行われ、また北海道の名所

に加え、ウィンタースポーツ

ミュージアムを見学しました。



ルスツスキー場

★大短高中幼卒業式

学園設置校の卒業式が3月

15日(木)～20日(火)にかけて

行われ、大学院7名、学部3

17名、短大131名、高校

682名、中学校50名、星陵

幼稚園63名、星陵泉野幼稚園

60名が卒業、卒園されました。

■大学

卒業生

◇研究業績部門

◇スポーツ部門

◇奨励賞

◇研究業績部門

◇スポーツ部門

◇奨励賞

◇研究業績部門

◇スポーツ部門

◇奨励賞

◇研究業績部門

◇スポーツ部門

◇奨励賞

◇研究業績部門

◇スポーツ部門

◇奨励賞

◇研究業績部門

◇スポーツ部門

◇奨励賞

■短大

卒業生

◇研究業績部門

◇スポーツ部門

◇奨励賞

◇研究業績部門

◇スポーツ部門

◇奨励賞

◇研究業績部門

◇スポーツ部門

◇奨励賞

◇研究業績部門

◇スポーツ部門

◇奨励賞

◇研究業績部門

◇スポーツ部門

◇奨励賞

◇研究業績部門

◇スポーツ部門

◇奨励賞

★第61回石川県耐寒継走七尾大会で金沢星稜大学が優勝

1月28日(日)、110チームが出場した第61回石川県耐寒継走七尾大会で、本学陸上競技部が、2位に1分40秒近くの差をつけ優勝。七尾―田鶴浜間の駅伝から通算6連覇を成し遂げました。

優勝 金沢星稜大学A

出場選手：篠原正明(2年)→池田敬一(3年)→岸太一(3年)→奥野遼太郎(2年)

3位 金沢星稜大学B

出場選手：釜井連弥(1年)→舟倉大二郎(1年)→橋口太郎(2部4年)→富田幸祐(1年)



★田代さん、ツエーゲン金沢へ

本学サッカー部出身の田代祐平さん(19年3月卒)が、ツエーゲン金沢に入団しました。ポジションは、ゴールキーパー。高い身体能力を生かし、相手チームからゴールを守ってくれるでしょう。

Jリーグ昇格を狙うツエーゲン金沢の躍進とJリーグの舞台で、田代さんの勇姿を見ることができるよう、皆さんの応援をよろしくお願いします。



★年少さんのリズムあそび★

「メダカさんになってみよう〜」

音楽に合わせて体を動かすことが大好きな年少さん。時には先生のピアノをきいてイメージをふくらませ、色々なものになりきって体表現を楽しみます。



この日は、年少さん最後の参観日。お日さまの光がポカポカと差し込む2月のある日、友達の中で堂々と嬉しそうにリズム遊びを楽しむ子どもたちの様子を見てもらいました。

自信を持って自分なりの表現をする子どもたちの姿に、一年の成長をみて、保護者の方たちもほほえましげに見守っていました。

★年長さんの大そうじ★

みんなで床をぞうきんがけ。拭けば拭くだけピカピカになっていく床に、気持ちものつてきて、どんどんスピードもアップ!

1年間友達と過ごした思い出いっぱい部屋にお別れする前に、年長さんが心を込めて大そうじをしてくれました。

部屋も☆ピカピカ☆心も☆ピカピカ☆になって平成19年3月14日年長組63名が、元気にすがすがしい笑顔で星稜幼稚園を巣立っていきました。



★もちつき会★

杵でついた、つきたてのおもちをかわいい手で“くるくる”“こねこね”。

毎年子どもたちが楽しみにしているもちつき会です。食べるだけでなく、つきたてのおもちの感触を味わってほしいという保護者の方たちの思いでこんな楽しい経験ができました。

きな粉をつけたり、おしょう油をつけてのりで巻いたり、味ももちろんおいしくて大満足の子もたちでした。

★幼 星稜幼稚園



★ケビン先生とのABCランド★

年長組になると月に1〜2回英語とふれあえるとっても楽しい時間がやってきます。

子どもたちにとっては、英語というよりケビン先生と一緒に遊べるHappyなひとときという感じ。

最初ははずかしそうにしている子どもたちも、面白くて回を重ねるごとにどんどんダイナミックに大きな声で英語遊びを楽しめるようになります。そして、違う国の人と友達になれることのすばらしさも経験している子どもたちです。



★かるたとり★

新しい年を迎えると年少さんのクラスでもかるたづくりやかるたとりが始まります。どんな絵にするかどんなお話にするかも子どもたちが考えて作ります。

年少さんなのに読み手をかってでる子もいて、一人遊びからお友達遊びへと広がる場面です。



★年に一度の同窓会★

星稜泉野幼稚園では、毎年小学校1年生から6年生までの卒園児全員に同窓会の招待状を送ります。いろいろな小学校での経験をおみやげに、中には遠く千葉や大阪からも集まってくれました。

どこにいても友だち、いつまでも友だち、そしていつ来てもここは、みんなの幼稚園だからね。



★幼 星稜泉野幼稚園

★表現遊びの会★

毎年11月には表現遊びの会があります。それぞれが思い通りのイメージでなりたい役を代わりあいながら当日を迎える劇遊び。“お面だって小道具だってみんなががんばって作ったんだよ”とお客さんにちょっと自慢したい気分。子どもたちのはにかんだ表情も楽しそうな笑顔もお母さんと子どもたちの思い出箱に大切にしまいました。



平成19年度 事業計画骨子

【大 学】

- 人間科学部が設置され、2学部体制での業務を円滑かつ発展的に行う。
- 引き続き教育の充実を基礎とする大学の改革を推進する。
- 19年度は、高等教育評価機構の大学機関別認証評価を受ける。

【高校・中学】

- 徳・知・体の理念で真に豊かな人間形成教育を目指す。
- 特色あるカリキュラム編成・習熟度別学習で教育効果をあげる。
- きめ細かい指導体制のもとで生徒の個性や特性を伸ばす教育をする。
- 心の教育に重点をおく。

【短 大】

- 「人間・キャリア教育」をさらに充実させる。
- コースを見直し、カリキュラムの検討をはじめ、引き続き改革を推し進めていく。

【幼稚園】

- 基本的な生活習慣・態度を育て、豊かな心情や思考力を養い、意欲や思いやりのあるやさしい子を育てる。
- 将来社会の一員として協力ができ、主体性を持った人間になることを願い遊びの中で自己実現がはかれるように導く。
- 園と家庭が連携して子供の育ちを促し、家庭では体験できない新しい世界の出会いと自立に向けた基盤作りにつとめる。

詳細は、法人本部法人課(253-3908)で、ご覧いただけます。

理事長室から 表敬訪問

4月6日(金)、中国・大連工業大学の余 加祐(よかよ)学長、于 占元(うせんげん)管理・社会科学学院書記、陳 宇(ちんう)国際交流・合作処 処長、王 薇(おうい)管理・社会学院対日交流合作部長が理事長を表敬訪問しました。この訪問は、OEC(オーブン・リサーチ・センター)事業などで、交流のある古賀 克己(きく)日本国際交流センター理事長(株)アル

です。大連工業大学は、11学部からなり、専任教員533名、学生は大学院を含め約7900人の大きな大学で、中国でもトップレベルの大学です。表敬後、余学長は、余学長の希望で、大学の藤井教授、大数教授ほか主門に経済を専門とされる先生方と学術交流を行いました。



2007年“平和－民族の壁を越えて” 石川日本語サミット

金沢星稜大学・星稜高等学校がホスト校に決定

日本語を学ぶ、世界の青少年の“日本ファン”の醸成・育成と、日本と世界各国との架け橋となる優秀な人材ネットワーク構築を目的として開催されます。2007年6月15日(金)から7月19日(木)の約35日間、東京都と地方で日本文化体験・ホームステイ・体験授業を行うとともに、日本語による討論会(日本語サミット)が行われます。

6月26日(火)から7月10日(火)の「地方プログラム」において、金沢星稜大学、星稜高等学校がホスト校に決定しました。

◎ホストファミリー募集

お申し込み・お問い合わせ：金沢星稜大学事務局 TEL 076-252-2236

(株)星稜プラザ設立 より充実したサービスをめざして

学園の厚生部門および郵便業務を別法人化し、平成19年1月4日(株)星稜プラザ(社長田中洋之「短大事務局長」)が設立され、学園から業務が移管されました。また、3月30日(金)稲置郵便局長(理事長)から田中社長へ郵便業務の引継ぎが行われました。

なお、(株)星稜プラザでは次のような事業を行っておりますので、学園関係者の方のご利用をお願いいたします。

【(株)星稜プラザの主な事業】

教育支援、簡易郵便局受託、コンビニ、自販機による飲食の提供、学生・生徒及び教職員等へのサービス寄与、文化・スポーツ事業の企画、実施、プロモーションに関する事業等



学園歓迎会

4月2日(月)9時より辞令交付、18時より学園の教職員237名が集う学園歓迎会が金沢スカイホテルにて行われました。

19名の新任の方々 ▶



能登半島地震災害－復興を願って－

3月25日に能登半島沖で発生した地震は、能登地方各地に大きな災害をもたらしました。本学園でも、地震で被災された方々を支援するため、義援金を募り、輪島市役所にお届けしました。皆様方の温かいご支援ご協力ありがとうございました。被災者の方々に心よりお見舞い申し上げます。

能登半島被災学生・生徒への支援

学園は、能登半島地震により被災された世帯で、学費負担者が災害救助法適用地域に在住する在学生を対象に授業料等減免を行います。

○災害救助法適用地域：石川県七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋郡志賀町、鹿島郡中能登町、鳳珠郡穴水町、鳳珠郡能登町

支援内容

- (1) 入学金(高校は施設設備費を含む。)の返還(平成19年度入学生)
- (2) 授業料等の減免(原則として一年間)

	大学・短大	高 校
ア. 家屋の全壊または全焼	全額	336,000円(月額28,000円)
イ. 学費負担者が死亡	全額	336,000円(月額28,000円)
ウ. 家屋の半壊または半焼	75%	252,000円(月額21,000円)
エ. 家屋の一部損壊	25%	84,000円(月額7,000円)

※授業料等：大学・短大 授業料及び施設設備費、高校 授業料及び施設維持費
対象家屋：学費負担者が居住していた家屋に限る

- (3) 見舞金の給付 対象者の内、(2)に該当しない場合に、一律2万円給付

詳細は各学校の事務局・事務室まで

金沢星稜大学トレーニング センター“リニューアル”

大学の新学部スポーツ学科、こども学科の設置を受け、大学トレーニングセンターが新しくなりました。最新の施設と設備で学生の皆さんをサポートします。



スタジオ



ジム

行事スケジュール(4～7月)

金沢星稜大学	
4月	1日(日)～2日(月) 3年専門ゼミ合同合宿(山中温泉)
	3日(火) 入学式・1年次保護者対象就職ガイダンス
	4日(水) 新入生学内オリエンテーション
	5日(木)～6日(金) 新入生学外研修(山中温泉)
	7日(土) 新入生歓迎祭
	9日(月) 前期授業開始
	9日(月)～13日(金) オリエンテーション授業期間
	履修登録期間
	17日(火)～20日(金) 学生健康診断期間
	19日(木)～20日(金) 学生時間割配布
6月	22日(日) 4年次保護者対象就職ガイダンス
	28日(土)～5月6日(日) ゴールデンウィーク休講期間
	9日(土) 第1回オープンキャンパス
	30日(月) 前期授業終了
7月	31日(火)～8月6日(月) 一斉試験期間

星稜女子短期大学	
4月	3日(火) 2年次オリエンテーション
	5日(木) 入学式
	6日(金)・9日(月) 1年次オリエンテーション
	10日(火) 新入生歓迎祭
	11日(水) 前期授業開始
5月	30日(水) 体育祭
6月	2日(土) 稲星会役員会及び総会
	23日(土)～24日(日) 北陸三県私立短大体育大会
7月	30日(月) 前期授業終了

星稜中学・高等学校	
4月	7日(土) 始業式(高・中)
	9日(月) 入学式(午前:高校、午後:中学)
	26日(木) 遠足
5月	14日(月) 中学授業参観
	19日(土) PTA総会
	21日(月)～24日(木) 中間試験
	22日(火)～23日(水) 中学中間試験
	31日(木)～6月3日(日) 県高校総体・総文
6月	16日(土)～17日(日) 北信越高校体育大会 中学県体予選
7月	2日(月)～6日(金) 期末試験
	3日(火)～5日(木) 中学期末試験
	7日(土) 中学合唱コンクール
	17日(火)～18日(水) 体育大会
	20日(金) 中学終業式
	21日(土) 終業式
	28日(土)～ 全国高校総体(佐賀・福岡)
	31日(火)～8月1日(水) 学校見学会

星稜幼稚園	
4月	6日(金) 始業式
	7日(土) 入園式
	27日(金) 保育参観、保護者会総会
5月	21日(月) 避難訓練
	25日(金) 親子バス遠足
6月	1日(金) プール開き
	12日(火) アスレバル石川(年長)
	20日(水) 観劇(年長)
	29日(金) オープンハウス
7月	6日(金) プラネタリウム(年長)
	9日(月) 避難訓練
	20日(金) 終業式
	21日(土) キッズワールド
23日(月)～24日(火) お泊り保育(年長)	

星稜泉野幼稚園	
4月	6日(金) 始業式
	7日(土) 入園式
	20日(金) 保護者会総会
5月	11日(金) 保育参観 クラス懇談
	18日(金) 親子バス遠足
	29日(火) 避難訓練
6月	12日(火) アスレバル石川(年長)
	26日(火) オープンハウス
7月	5日(木) セタの集い
	13日(金) プラネタリウム(年長)
	19日(木) ちびっこ夏祭り
	20日(金) 終業式
	23日(月)～24日(火) お泊り保育(年長)



あとがき

おかげさまで、「星稜サエラ」も1周年を迎えることができました。
各校とも新しい笑顔とともに、新年度がスタートしました。
本号では、各校入学・入園式をはじめ、大学の新学部設置を中心とした内容をお届けします。
新しい年度にあたり皆さんが「星稜」に新たな風を吹き込んでくれることを願っています。

井下 桂子

表紙：星稜泉野幼稚園入園式

学校法人稲置学園・設置各校

金沢星稜大学

石川県金沢市御所町丑10-1
☎076-253-3924(代表)
<http://www.seiryu-u.ac.jp/>

星稜女子短期大学

石川県金沢市御所町西1
☎076-253-5900(代表)
<http://www.seiryu.ac.jp/>

星稜高等学校

石川県金沢市小坂町南206
☎076-252-2237(代表)
<http://www.seiryu-hs.jp/>

星稜中学校

石川県金沢市小坂町南206
☎076-252-2237(代表)
<http://www.seiryu-hs.jp/>

星稜幼稚園

石川県金沢市御所町寅27
☎076-252-5057(代表)
<http://kinder.seiryu.jp/seiryu/>

星稜泉野幼稚園

石川県金沢市泉野町6-17-30
☎076-244-5636(代表)
<http://kinder.seiryu.jp/izumino/>

星稜サ・エ・ラ

サ・エ・ラ(cà et là)とはフランス語で「ここそこ」「あちこち」。幼稚園から大学まで色々な場面にスポットを当てるという意味で、「どこでも星稜教育が息づいている」という表しです。

編集・発行／学校法人 稲置学園 2007年5月1日発行

編集責任者：春本裕雄(法人課長・秘書課長)

編集担当者：上田奈津子、井下桂子、宮崎 梢(以上秘書課)